

平成29年度研究テーマ **確かな学力を支える読解力の育成****大津町小中学校共通実践事項**

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示  
 (3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活

2月21日(水)

徳淵

先日の校内研では、今年度の学力調査の結果分析を行いました。国語・算数別にそれぞれの検討された内容を紹介します。

**国語****効果のあったと思われる取組**

- ①家庭学習において、読み取ったことを文章で答える課題に繰り返し取り組んでいる。
- ②「読む」単元における教材でも、終末に単元のまとめとなる「書く」学習活動を行っている。
- ③板書を核とした授業を考えていった。(さらに分析し、発問等の工夫改善が必要)
- ④小テストを継続して取り組んだ。

どの取組も「継続」が大切なものだと思います。残り1ヶ月ですが、指導者がねらいをもった取組を最後まで続けることで、子どもたちの力は伸びていくはずです。今回の分析から課題のあった領域等に着眼して、取り組むことが大切です。

**残り1ヶ月で必要な取組**

- ③文章を読む中で、指示語が指す内容を明らかにしていく。
- ④言葉の意味を具体的な説明や写真、絵などで理解させていく。
- ⑤宿題の読み取りでサイドライン等を入れることを促していく。
- ⑥辞書を用いる機会を設ける。(授業、朝自習 など)
- ⑦すきま時間を活用した読書。
- ⑧アシストシート等をとおして、問題文に慣れさせる。
- ⑨問題に対する答え方についても徹底していく。
- ⑩読書量を増やすための時間確保。(朝の時間…担任も一緒に行く)
- ⑪言語事項を上げるための取組(視写・漢字 など)

3年部では⑤について話題にしました。授業ではサイドラインを引かせたり、印を入れさせたりして読ませます。では、テストの時や宿題ではどうでしょうか。授業での取組を、子どもたちに浸透させていく、日常的な指導が必要ではないかと3年部で話し合いました。

⑦や⑩の取組については次のことを思い出しました。以前、知育部会において倉田先生が「給食準備の待ち時間を読書に当てられると有効だと思う。」と、話されました(ぜひ年度スタートから学校全体で統一したいことの一つです)。今ある時間をどう使うかは、見直しが必要です。岡本先生の今年度の教育論文では、文化庁の調査により15歳以上の読書離れが深刻な社会問題になっていると論じてあります。通信での保護者への啓発なども含めて、継続した取組で、子どもたちの読書に親しむ態度を育てていきたいと思います。

## 算数

### 効果のあったと思われる取組

- ①家庭学習において、毎回2、3題の筆算に取り組みさせることで計算の技能が向上した。
- ②聴くことの徹底を図ってきた。
- ③やり直しの質の向上に向けた取組を1年間続けてきた。  
(粘り強くやり直しに取り組み、その答えになるための過程を表現させることを大切にしていた)

6年生での算数科の伸びの背景には「やり直しの質の向上を目指した取組」がありました。計算のスピードを上げたり、解き方に慣れさせたりする一方で、「学習の仕方」を子どもたちに身につけさせることが大切だと改めて感じました。それが、「主体的な学習態度」にもつながっていくのではないのでしょうか。

### 残り1ヶ月で必要な取組

- ③課題の大きかった領域については朝自習の中でもう一度取り組みさせる。
- ④テープ図や線分図の問題に取り組む。(県学調ではほとんどの学年で出題。割合にもつながる。)
- ⑤時間を区切り、課題に取り組みさせる。
- ⑥途中の式をかかせる。
- ⑦「位」を意識した数の取扱い方を見直す。
- ⑧答えの見通し方(量感)を鍛える。
- ⑨かき込みや計算は大きくかかせる。
- ⑩子どもたちの教え合いの時間をつくり、学習内容の定着を図る。

⑧の量感…「なんでそんな答えになるんだー!」と、我々教師が感じることは多いですね。量感を身につけさせることは、意外に難しいことの一つです。

算数では、例えば子どもたちが「問題作り」をするのも一つの方法です。

- ・学習した数学的な知識・技能が自分たちの生活場面のどんなところにあるかを考えさせる
- ・扱う数値が妥当であるかを考えさせる

などの良さがあります。

そして、互いに解くことで、知識・技能の定着を図りつつ、友だちが考えた数学的場面にふれることができます。

⑩では、内田先生がされている取組は参考になります。

適用題の1問目は班やペアで交流させながら、解く学習活動を設定する。そして、2問目は自力で解かせる。

交流し合いながら取り組む場面と自力で考える場面の行き来も効果的だと思います。

今年度の残りの登校日は20日程度になりました。

たかが20日間…されど、20日間です!! 私たちがねらいをもって取り組めば、子どもたちの力をつけるには十分な期間だと思います。県学力調査の小問を解かせたり、アシストシートをしたり…素材もたくさんあります。最後まで、みんなで声をかけ合いながら取り組みましょう(^\_^)